

全国協議会 ニュース

発行所
全国骨髄バンク
推進連絡協議会
〒130 東京都墨田区
東駒形1-16-7
第1ホークプラザ303号
TEL.(03)3625-7307
発行責任者
運営委員長 渡辺孝一

中郵便振替口座中
00150-4-15754
(変更になりました。御注意を)
中銀行口座中
さくら銀行 新宿支店
普通 5666655

ごあいさつ

全国のボランティアは
力を合わせて運動の推進を!

全国骨髄バンク推進連絡協議会

会長 海部幸世



公的骨髄バンク事業が開始されて丸三年が経過しました。そしてこれまでに二百七十名の患者さんに生きるチャンスが与えられました。これは同時に二百七十名の方が、やさしさと勇気を持って御自分の骨髄を提供されたことを意味しています。本当にありがとうございます。

でも、私たち骨髄バンク運動を推進するボランティアは、更に大きく運動を進めて行かなければなりません。まだまだ当面の目標としている十万人のドナー登録者を募るためには、もっと大きな声で市民に呼びかけなければなりません。去年春以降登録者の増加にかげりが見えることが気がかりです。

それに念願のドナーを得ながら、移植を待機している患者さんが、施設の受け入れ体制の不備から無念のうちに亡くなられる現実を何としても改善しなければなりません。一年前、骨髄移植医療体制の整備を訴え、私たちは寒風吹きすさぶ中、署名運動を行い、二百万名近い署名を集めて国会に提出しました。しかし、その署名の重みが、まだどこにも現われていないことを残念に思います。新年を迎えて、今年こそは明

るい希望にあふれた骨髄バンクにするため、全国のボランティアが力を合わせて運動を進めて行くことではありませんか。

厚生省臓器移植対策室長

薄井康紀



新年明けましておめでとうございます。平成七年の年を迎えるに当たり、皆様の骨髄バンク事業に対する日頃からの格別の御支援と御協力に改めて御礼を申し上げます。今後、骨髄バンク事業の推進につきまして一言私の抱負を述べさせていただきます。

昨年を振り返りますと、五月に骨髄ドナー登録者が五万人を超え、非血縁者間の骨髄移植も十一月末までに二百六十二例に上るなど、骨髄バンク事業も比較的順調に進んでまいりました。これも骨髄バンクの中核である(財)骨髄移植推進財団や日本赤十字社の活躍もさることながら、それを全面的に支援していただいている全国津々浦々のボランティアの方々熱心で粘り強い取り組みの成果であるといえます。皆様の努力に心からの感謝の気持ちを申し上げます。同時に、目標の十万人に向けて気持ちも新たに本事業の普及啓発に努めてまいりたいと考えております。

さらに、コーディネート活動の養成とコーディネート活動の円滑化、無菌室等医療体制の整備拡充、海外の骨髄バンクとの協力など、私共も本事業の円滑な実施を目指し前向きに取り組んでまいり所存でございます。全国協議会におかれましては、これまで以上の御支援、ご協力を賜りますようお願い致します

平成七年の新しい年を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。全国協議会の皆様のご努力が実り、「日本骨髄バンク」が誕生してから、早、三年が経過致しました。その間、各地での普及啓発活動を始め、骨髄バンク事業の発展に対する皆様のご尽力により、六万人もの皆様が骨髄ドナーセンターにお越し頂きました。

益大なる一年と思われまふ。貴協議会の更なるご発展とご活躍を祈念するとともに、旧年に増してのご支援をお願い致します。新年のご挨拶とさせていただきます。

(財)骨髄移植推進財団・理事長

小池欣一



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

全国骨髄バンク推進連絡協議会の皆様におかれましては、日頃より骨髄バンク事業の推進にご尽力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、日本骨髄バンクも事業開始以来、三年も経過いたしました。この間、約六万人の方にドナー登録をいただき、約二百七十例の非血縁者間骨髄移植を実施することができました。また、ドナー登録受付業務に關しましては、昨年末より、各都道府県の協力をいただき、一部の保健所での登録も開始されました。

本年は、骨髄移植までの連絡調整を円滑に進めるため、組織の充実を図り、より多くの患者さんが骨髄移植を受けられることができるよう、努力していく所存であります。

また、当面の目標である十万人のドナー登録者の確保のためには、より積極的に普及啓発活動を進めて行かなければなりません。

日本骨髄バンクをご支援いただいているボランティアの皆様方におかれましては、今後ともより一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。貴協議会の皆様方のご健勝を祈念いたします。新年のご挨拶とさせていただきます。

全国協議会運営委員長

渡辺孝一



皆様、明けましておめでとうございます。昨年の署名運動はその数二百万近くに達するというような物凄いパワーを関係各所に示すことができた。また、念願であった一般からのコーディネート・養成も実現しました。これら全国のボランティアの熱意を、今年に国政や財団の中でさらに充実するように働き掛けていく必要があります。昨年末より日本中を震撼させた自殺による青少年の自殺には驚きを隠せませんでした。実は青少年が自らその命を絶つという現象は、毎年多くの子供たちが自殺をしているのが現実だということです。多分多くの人がこれがこれからの社会に不安を抱かれています。私共は、これからの骨髄バンク推進運動が

青少年に大きな影響を与えることができるのではないかと考えてなりません。それは、骨髄バンク推進運動が提供のための登録という他人の痛みが理解できなければ絶対に行なえない行為を前提にした運動だからです。移植の技術や採取の方法が変わっても、バンクのシステムや登録方法が将来変わることもあったとしても、骨髄バンク推進運動の基本的な理念は変わりません。

私たちの行なっている活動は、救命運動であると同時に人作り社会造りのための運動であると言えます。

誇りと気概と大きな理想を皆様と共有して、今年も共に活動していきたいと思っております。よろしくお祈り致します。

骨髄バンクNOW

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

☆骨髄バンク推進全国大会'94大阪で開催
12月11日(日)、大阪MBSギャラクシーホールで3周年記念全国大会が開かれました。定員400名の開場は満席となり、立ち見が出るほどの盛況ぶり、内容も骨髄液提供者(ドナー)と骨髄移植体験者(患者)の顔合せということもあり、会場内は、大きな感動に包まれました。

また、アジアオセアニア地区の医師によるパネルディスカッションも行われました。

☆チャンス改訂版、新ポスターが完成
従来のものより増刷され、チャンス改訂版ができ上がりました。また、新しく東ちづるさんにご協力いただき、財団ポスターも完成しています。問い合わせは財団事務局広報部まで。

☆公共広告機構は12月1日よりスタート
一年間の予定で放送が随時行われています。

【11月末現在検査済ドナー登録者 57,983人】
【11月末現在患者登録者 2,530人】
【11月末現在移植件数 262例】

★骨髄バンクへのお問い合わせは★
フリーダイヤル0120-377-465



全国協議会の動き

◎提案書と要望書を提出
①「骨髄バンク募金箱の設置について(提案)」
(十二月七日、財団理事長あて)

◎全国代表者会議開催
(十二月十一日大阪)

②「ドナー最終同意の第三者立会いについて(要望)」
(十二月十一日、財団中央調

整委員長あて)
協議事項の主な内容——シルクのTシャツ作成の件、チャリティゴルフコンペ開催の件、総会・代表者会議に旅費支給の件など決定しました。

心の響きが
聞こえてきます。

言葉よりも深く、強く、
わかりあえる瞬間があります。
伝えあう喜びと通じあえる感動を
NTTはあなたとともに広げていきたい。



94年骨髓バンク10大ニュース

第一位は百万人署名提出

第二位は着実に移植実施

第三位は保健所でドナー登録開始

'94年骨髓バンク10大ニュース投票結果

1位	227点	署名運動で大きな盛り上がり
2位	198点	着実に非血縁骨髓移植を実施
3位	196点	保健所でのドナー登録が開始へ
4位	181点	ドラマ「21歳の別離」放送
5位	180点	三次検査はDNAタイピングに移行
6位	173点	ドナー登録5月に5万人突破
7位	167点	公募コーディネーターの養成開始
8位	160点	アニメ「金色のクジラ」完成
9位	142点	あやちゃんの贈り物展が全国展開へ
10位	130点	患者登録基準の枠が少し拡大

11位	128点	骨髓バンクニュースを全登録ドナーに配布
12位	123点	ドナーフォローアップ開始
13位	120点	いのちの船「大幸丸」キャラバン実施
14位	119点	財団の電話受付にボランティアが協力開始
15位	108点	骨髓バンク推進議員連盟が発足
16位	105点	骨髓移植関連の保険点数改訂
17位	93点	財団がサポーター制度を導入
18位	92点	全国協議会の加盟が26団体に
18位	92点	ドナーカードを発行
20位	85点	鹿島アントラーズのポスター制作
21位	80点	三谷レポート提出される
22位	69点	新テレホンカードを発行

全国協議会ニュース編集部では、昨年一年間の骨髓バンク10大ニュース選定のため、加盟団体の協力を得てアンケート調査を行った。

その結果、第一位に輝いたニュースは「署名運動で大きな盛り上がり」の盛り上りを見せたことが選ばれた。

このアンケートの回答者数は五十二名であった。

第一位が署名運動となったのは、全国のボランティアが全力を傾注して署名運動にとり組んだから、当然と言えるだろう。しかし署名の成果は、まだ現実のものとはなっておらず、今年以降に大きな課題を残している。

第二位は着実に移植実施が実施されていることが重要視されている。しかしながらこの数が今後どんどん増えて行っているが、どうなるだろうか。

保健所でのドナー登録開始というニュースが第三位となった点も注目すべきである。都道府県の役割が普及啓発からドナー登録業務へと拡大したことは、骨髓バンク事業の根幹にかかわる変化といえる。

第四位以降には骨髓バンク事業の推進に欠かせない普及広報で話題となったニュースが顔をみせる。中堀由希子さんを画いたドラマ「21歳の別離」が第四位という上位にランクされ、八

位にアニメ「金色のクジラ」の完成、九位にあやちゃんの贈り物展が全国展開することになったニュースが入っている。

その他十位以内に「DNAタイピング」「五月にドナー五万人突破」「患者登録基準の拡大」などが選ばれている。第七位の公募コーディネーターの養成開始は、今後の骨髓バンク事業の進展には欠かせないニュースであり、もっと上位にランクされてしかるべきだとの声も編集部には出ている。

十一位以下のニュースは別表の通りで、じっくりとご覧いただきたい。この結果は全国のボランティアたちの問題意識を反映し、極めてバランス感覚のとれた結果となったことと思うが、どうであろうか。

さて、アンケートではあらかじめ挙げた二十二項目以外にもその他の欄を設け、自由に記載してもらったが、次の四点があったので最後につけておく。

①茨城県の小沼知子さんがテレビを通して患者としての苦しみ、ドナー登録推進を語りかけた。

②当会より初のドナー選定者が出る(千葉)。

③全国協議会ニュースが第三种郵便物認可となり、財政基盤が徐々に整備されつつある。

④渡部運営委員長体制二期目でありよいよ充実。

「10大ニュースの選定方法」

94年骨髓バンク10大ニュースの選定にあたっては、あらかじめ編集部が22項目のニュースを抽出して提示した。これを各加盟団体に五名を限度に投票してもらい、ニュースの重要度から◎と○と△印をつけることにしてもらった。印をつける数は制限していない。なお、◎は五点、○は三点、△は一点で加点することにし、獲得点数の多いものから順に10大ニュースの順位をつけた。

95年の★予想★

- 移植成績の大幅アップ。
- 海部会長の旦那さんが総理大臣となり、バンクのかかえる問題がすべてクリアにされる。
- 予算が大幅に伸び、移植センター設置。
- 地方自治体が予算をつけて、積極的に地域でのボランティア活動をサポート。
- 移植施設の不足による何らかの事件発生。
- 新薬登場！これ1粒で血液疾患がなおる。
- 2次検査不要となる。
- 大口サポーターが現れ、財団の懐が満腹となる。
- いろんな人に、ひとりひとりに、骨髓とは？移植とは？ドナーとは？を宣伝できる体制ができる。
- 全国のボランティアグループによる、統一的なキャンペーン実施。
- 民間企業での、ドナー休暇完全実施へ。
- 末梢血幹細胞、臍帯血での移植が拡大。

- 全ての保健所で検査可能となる。
- 血液難病の発症メカニズムが解明され予防法が確立。
- 骨髓バンクの大切さを学校の授業の一貫として取り入れ子供達に理解してもらおうと共に成人した後、自分から進んで登録をしてもらえるようになる。
- 18才からドナー登録できるようになる。
- 白血病の患者発生率が激減(原因不明)。
- 新薬開発により、白血病の化学療法の治療成績が大幅にアップ。
- バンクの国際交流実現。
- 骨髓移植関連の保険点数が改善され、移植をする病院がもうかる。
- 献血車での登録実施へ。
- わが国の非血縁骨髓移植年間500例突破。
- 世界骨髓バンク会議日本で開催。
- 採血場所、採血時間、採血曜日の拡大。

95年骨髓バンク
重大ニュース予想！
奇想天外！
夢いっぱい今年！

さて、全国協議会ニュース編集部では、昨年の10大ニュース投票に加えて、今年一年でどんなニュースが骨髓バンクのまわりで発生するかの、ニュース予想アンケートを実施しました。

●来年はこんなことが実現できたらという願望をこめた予想

●来年こそは、こうしてもらわなければ困るといふ決意をこめた予想

●当然こうなると考えられる当り前の予想

自由な発想で書いてもらいました。来年のことを言うて鬼が笑うといいますが、大胆に夢いっぱいニュース予想が集まりました。

圧倒的に多かったのは「10万人のドナー登録突破」でしたが、その他にもいろいろと楽しいニュース予想が集まりました。順不同でご紹介します。

心からのご寄付をありがとうございました

11月22日～12月20日まで

はとの会	テレカ	20,000
北区赤羽中学校	切手	939
むらかみなおとし	現金	5,000
水島由美子	切手	900
高津幸夫	現金	5,000
川那部豊子	現金	10,000
	切手	10,438
東井朝仁	現金	20,000
菊池清香	切手	2,458
サントフーリアンピアトリオチャリティーコンサート (埼玉・福島・東京)	現金	254,131

(敬称略)

活動資金の援助をお願いします

銀行口座
さくら銀行 新宿支店
普通 566655
郵便振替口座
00150-4-15754
全国骨髓バンク推進連絡協議会

明日がいっぱい集まったなら...

まりんちゃんを突然おそった白血病...その小さな笑顔を守るために骨髓移植という選択を模索した、家族や医師たちの闘いを描いた感動のコミック!! (財)骨髓移植推進財団+全国骨髓バンク推進連絡協議会推せん

ごとう和
原作・斎藤よしみ (つばさの会)

●A5判 定価790円(税込)

秋田書店
〒102 東京都千代田区飯田橋2-10-8
☎03(3264)7248 振替・00130-0-99353

新刊 橋本明子 著

翔べ！白血病の息子よ

息子の発病を機にバンク運動を始めた。しかしバンク設立と入れ替わるように息子は逝ってしまった。闘病と運動の息詰まる日々を「月刊Asahi」連載の同時進行ドキュメントより

46判二四四頁、一七〇〇円

海鳴社
東京都千代田区西神田2-4-5
(03) 3234-3643 (Fax共通)

頭痛のタネ、肩の重荷、首がまわらない、不景気な顔、足の引っぱりあい、勇み足、骨肉の争い、明日胃カメラ、プレッシャー、取り越し苦労、空まわり、板バサミ、ムカムカ、イライラ、モヤモヤ、ムシャクシャ、ギクシャク、セクハラ、未練タラタラ、内気、エッチ、良心の呵責、永すぎた春、单身赴任、親子の断絶、理由なき反抗、五里霧中、四面楚歌、諸行無常、煩惱、出来心、退屈、理想と現実のギャップ、失意のどん底、お先まっ暗、不吉な予感、気のせい、ツキがない、楽しくないでお悩みの方に、フジテレビ。

フジテレビ

北海道

「骨髄バンク市民フォーラム」開催 五月に旭川市、七月に札幌市でそれぞれ開催。

(1)ビデオ「あなたの善意を骨髄バンクに」上映。

(2)大谷貴子さんによる講演。

(3)パネルディスカッション「初の試みとして、移植患者とドナー経験者を中心に、財団、移植医、看護婦、報道記者、ボランティアがパネラーとして登場。会場アンケートの結果、そのほとんどが「患者やドナーの生

の事に感動」と答えてくれた。

(1)夏休みに「あやちゃんの贈り物展」北海道シリーズ」を四、五都市で開催予定。一人でも多くの人にきてもらい、感動をひろげたい。

(2)北海道内各地でボランティアグループ結成の機運が高まりつつあるので、これを積極的に支援していき

たい。

(3)ドナー登録受付保健所拡大のための要望活動を強化し、六年度一か所であったものを、七年度以降については、最低でも五か所以上の対応をめざしたい。

他の支援をしてくださる団体によるアニメ「金色のクジラ」のフィルム、VTRの寄贈と上映会、講演会、等の開催。初めての市町村主催による講演会やマスコミによる骨髄バンクについての報道など、環境づくりが積極的に進められた一年であった。締めくくりに十二月四日付け地元市「若手日報」に県の広報活動として「東ちづるさん」と「大谷貴子さん」のご協力をいただき全一面カラーの「骨髄バンクを応援してください」と題した広告を掲載していただきました。

今年には保健所登録拡大の広報とドナーリクルート活動特に若い方に対する普及啓発とあわせて骨髄採取施設、骨髄移植施設の拡充をめざす活動を展開してまいります。各地のみなさんのご支援をお願いします。

恒例の「骨髄バンク自転車キャラバン」平成三年から、連続四回目を迎えた。骨髄バンク自転車キャラバンが小雨の中昨年の十月十六日に行われました。自転車で行きながら役場やお店を

回り、ポスターの掲示などをお願いしました。看護学生や医学生など、今年初めて参加してくださった方も、大勢の方に声をかけていただき、大満足の一日でした。既に来年度の参加申し込みもあり、多くのサイクリストが骨髄バンクを応援してくださることに感謝、感謝。

出来ることからこつこつと、今年も地域に密着した活動を行ってまいります。とりあえずは、三月の高・全校に図書の寄贈することを目標に頑張ります。

骨髄バンク推進月間の行事として、十二月五日、仙台の電力ホールで「さとう宗幸・チャリティコンサート」を実施しました。運営委員会は半年余りの準備を重ね、市内の各企業やライオンズクラブ、連合宮城等の協力も得て、宣伝や入場券の頒布に努めた結果、当日は六時からの開場に四時頃から早々と来場する人たちがいるほどで、定員千名のホールがほとんど満席になる盛況でした。人間の愛と平和のきずな

を高く歌い上げるさとう宗幸さんの歌も素敵でしたが、プログラムの中で司会のTBSの橋本アナウンサー、日赤宮城血液センターの遠藤副部長にさとう宗幸さんを加えた骨髄バンクについてのトークキングはとて分り易く、また感銘深いものでした。このコンサートが骨髄バンク運動にどのような出会いと協力を広げて行くか、協議会では大きな期待を抱いています。

平成六年には、大幸丸の展示や自衛隊音楽隊による街頭コンサート、ボランティア・グループによる月例の街頭チラシ配布等を行って来ましたが、七年度も同様のプログラムを実施すべく立案中です。ボランティア・グループでは古川・石巻支部との連携を深めながら、月例の学習会も行う予定で準備中です。

今年はいわきで活動を開始して三周年を迎えます。振り返ると、良くこれまで頑張ってきた反面、今も病気の困っている患者さんやまだまだ道程は遠いことを思い知らされます。今年も原点に立ち帰って運動を展開したいと思えます。まず、保健所で受付が始まった三地域のシンポジウムを開催し、いわきの五周年事業として「あやちゃんの贈り物展」とリレー講演会を開催しようと思

っています。

平成五年十二月から取り組み、集まった署名は十七万人を超えました。その署名を持って平成六年五月十日にレンタカーに二十三名乗車し、早朝三時出発で九時に衆議院第二議員会館へ到着し、新潟県選出国會議員十八名に手分けして、無事署名を提出する事ができました。この署名は、寒い吹雪の中を一軒一軒廻って、ボランティアが一丸となって心を合わせて取り組んだ結果です。行く先々では好意的に協力して頂き、大変ですがやはり足で稼ぐのが一番の早道だと思つた署名活動でした。

関心のない人に関心を持ってもらおう。関心を持った人に行動してもらおう。これがなかなかむずかしい。心を動かすこと。心に響く運動を続けること。これが今年の抱負であり、また課題でもある。本年もよろしくお願ひします。

広める会の発足のきっかけとなった一人の患者への、バンクを通じての移植が間もなく行われるこの患者を救うことが、私たちの会の目的ではないか。この患者の親友の一人が、「いま自分から出来ることは何か」と立ち上がったことが会の

徳教育の教材として多くの学校で利用されることを期待。

市町村と提携しての普及啓発を進めていく当会では、四月に深谷市で深谷ふれあいフェスティバルを、九月には上尾市で市民フォーラムを開催した。両市とも保健センターが窓口となり動員に協力してく

れた。特に高久先生を招いての上尾市では、青年会議所のメンバーの全面協力が得られ、全市を挙げてという理想的な形が実現した。

七月の県民講習会、九月の県民フォーラム、十一月のこどもフォーラムでも県教育委員会の協力が得られ、保健担当職員との関係が深まり、浸透が見られた一年でもあった。

骨髄バンク運動を通して、いのちの尊さ、大切さを訴える運動を継続すると共に、病気の困、障害を持った人など弱者への「あつたかい心」を育んでいきたい。

七月十六日、千葉県我孫子市において、親子の集い「かしわ哲・アイシテル・コンサート」金色のくじら上映会を開催いたしました。今度までアピールの機会の少なかった若くは母親と子供を対象に理解と支援を呼びかけることができた。当日は暑い日でしたが、二百五十席満席になり、参加者全員がひとつになり楽しい時間を過ごすことができました。

初めての企画で不安もありましたが、満足いく結果を得られたと思

います。

当会が発足してこの二月で丸三年が経過しようとしている。この間、手さぐり状態で各種の活動を行ってきたが、果や市町村の活動民間の各団体をはじめとした幅広い支援とご理解が得られるようになった。本年はこれらを踏まえ、もう一度原点にかえって、当会の体制づくりと活動内容の吟味を実施したい。

何と云っても去年は「あやちゃん」で大忙しの一年でした。絵、ガキはすでに一万一千セットを作り、現在五千セットを再増刷中で

す。あやちゃんの贈り物展が今年も全国各地で開催されることになり、その需要に応えるためです。去年夏三鷹から始まった展覧会は、すでに春までの予定がぎっしりです。また卓上カレンダーも各地団体の協力を得て作成し、好評を拍しています。感動的なあやちゃん絵をあなたも是非一度ごらん下さい。

貧乏団体の「東京の会」は流浪のやさぐれボランティア。去年は三度も引越をして、未だに落ち着き場所が定まらぬ身。今年こそは行政の助成でじっくりと腰を据えるぞ。とは言っても歯に衣を着せぬ会

報の論調では無理か。それでも姿勢は変えません。

友の会では平成五年十一月に板橋区議会として骨髄バンク事業に対する支援をして下さい(都立板橋病院に無償及び医療スタッフを設備)という内容の請願を行いました。この請願は十月から始め十一月には四千八百三十二名の署名を添えて提出し、同月十六日に全面採択され、二十日には区議会議長名で東京都知事あて要請書が出されました。また、同様の請願を平成六年三月に三万五千六百六十八名の署名を添えて都議会にも提出し、同年六月には全面採択されました。また、国会に対する署名も三万六千九百三十三名を協議会へ提出することができました。日常の活動では、骨髄バンクへの協力を訴えるちらしを各戸や街頭などで配布し、当会の設立二周年の集いも百余名の参加で十一月二十日に行いました。

友の会ニユースは五回発行し、新年一月には、十二号目が発行する予定です。会員数も二百三十名をこえて今年も精一杯活動を行って

いこうと思つています。このため、草の根運動を昨年実績を踏まえて広げることや、街頭や地域への宣伝活動を強化し、行政や議会に対する運動も続けていこうと思つています。

昨年四月、桜川くさね岡堂寺で二度目のコンサートを開催しました。方丈に、ひな壇に金屏風の特設ステージと畳に座布団という二百五十名の客席は満員。演奏者の呼吸まで聞こえる緊張感と、流れるピアノと弦の音色に酔いしれた春の宵で、このような協力にはもうないとい多

くの声が寄せられ、岡堂寺とサンクト・フローリアン・ピアノトリオのご協力を得て、今年も四月にチャリティコンサートを開くことになりました。鎌倉の春の恒例行事の一つにしたいと思つています。

政令指定都市の各区、県内の各市町村、並びに各保健所を会員でグループ担当割り、グループを受け持ち行政担当者と共に、身近な所で身近な人々にバンクの普及啓発活動を展開し、生命の尊さ、すばらしさを合わせて訴えたい。

昨年は県総合社会福祉会館に事務局を設置することができたことがビッグエポックでした。これによって活動の拠点をきつことも、関係機関との連携に距離をきたすこともなくなり、ますます活動に弾みがついたと言えます。この実現の裏には行政当局の深い理解が得られたことがあり、今日まで私達が地道に真摯に活動してきたことを行政が認知してくれて結実した物である点

が大変うれしいところです。さらにこのような行政の強いバックアップを得て、県議会議員宛てに提出した「骨髄移植医療の拡充と整備を求める請願」が議会が採択になったことも大変大きな出来事でした。本年以降骨髄移植を取り巻く環境がよりよい方向に向いていくことを、ことを大いに期待しています。

昨年からのドナー登録者の毎月の増加が低迷している点が気になっています。現在のドナー登録制度の中ではある程度限界があることは予測されるところです。今後さらにドナー数を増やして目標を目指すためには、登録・入院中の休業補償やバックアップ体制の充実などが必要でしょう。これらの点について私達ボランティアが何が出来るのか考える年にならばと思います。

「うちの昨年のヒット企画は何かな?」

愛媛

愛媛大学でのビデオ上映会の開催。宣伝ビデオの裏面に「骨髄バンクへの誤解ワースト4」を刷り込んで

山形市とその周辺に撒いたビラの約四万枚「骨髄と骨髄とは異なる」「骨を切り取ったり削ったりするのは「死後に提供するのではない」「登録時の検査は血液検査だけであり」「死後提供は血液検査だけであり」の四点を強調。ビデオ上映会には来なかった人でも、このビラを見て誤解を改めた人は多かったのでは?

某歌手のコンサート会場で、エイズ撲滅運動のキャンペーングッズを売っている人々に出会った。賛同している歌手は大勢おり、彼らのコンサートがある度に、ボランティアが会場に来て売らんと。これぞ、高知!

第三回高知骨髄移植シンポジウムを中村市で十二月十一日開催しました。中村保健所が、十二月から、骨髄提供骨髄提供登録業務を開始したのに合わせて催しました。百二十九名の出席がありました。再生不良性貧血で死亡した方を偲んだ「クンホー会」は、第三回ゴルフチャリティで集めた二百六十六万円で、高知県内、二十九ライオンズクラブは、十月一日、4R骨髄バンク特別委員会を発足させ、年二百五十万円を目標に寄附金を集めることを決めました。

(1)機関紙発行。(2)効率のよい運営。今のままではボランティア活動の限界を感じています。ボランティア活動の減少、対策を考えたい。

この新春企画「各地の活動」については加盟各団体へ編集部より原稿の依頼をいたしました。しかしながら原稿締切日までに原稿が届かず、残念ながら掲載できなかった地域団体が多くありました。

友の会

友の会では平成五年十一月に板橋区議会として骨髄バンク事業に対する支援をして下さい(都立板橋病院に無償及び医療スタッフを設備)という内容の請願を行いました。この請願は十月から始め十一月には四千八百三十二名の署名を添えて提出し、同月十六日に全面採択され、二十日には区議会議長名で東京都知事あて要請書が出されました。また、同様の請願を平成六年三月に三万五千六百六十八名の署名を添えて都議会にも提出し、同年六月には全面採択されました。また、国会に対する署名も三万六千九百三十三名を協議会へ提出することができました。日常の活動では、骨髄バンクへの協力を訴えるちらしを各戸や街頭などで配布し、当会の設立二周年の集いも百余名の参加で十一月二十日に行いました。

友の会ニユースは五回発行し、新年一月には、十二号目が発行する予定です。会員数も二百三十名をこえて今年も精一杯活動を行って

いこうと思つています。このため、草の根運動を昨年実績を踏まえて広げることや、街頭や地域への宣伝活動を強化し、行政や議会に対する運動も続けていこうと思つています。

神奈川

二度目のコンサートを開催しました。方丈に、ひな壇に金屏風の特設ステージと畳に座布団という二百五十名の客席は満員。演奏者の呼吸まで聞こえる緊張感と、流れるピアノと弦の音色に酔いしれた春の宵で、このような協力にはもうないとい多

くの声が寄せられ、岡堂寺とサンクト・フローリアン・ピアノトリオのご協力を得て、今年も四月にチャリティコンサートを開くことになりました。鎌倉の春の恒例行事の一つにしたいと思つています。

政令指定都市の各区、県内の各市町村、並びに各保健所を会員でグループ担当割り、グループを受け持ち行政担当者と共に、身近な所で身近な人々にバンクの普及啓発活動を展開し、生命の尊さ、すばらしさを合わせて訴えたい。

昨年は県総合社会福祉会館に事務局を設置することができたことがビッグエポックでした。これによって活動の拠点をきつことも、関係機関との連携に距離をきたすこともなくなり、ますます活動に弾みがついたと言えます。この実現の裏には行政当局の深い理解が得られたことがあり、今日まで私達が地道に真摯に活動してきたことを行政が認知してくれて結実した物である点

が大変うれしいところです。さらにこのような行政の強いバックアップを得て、県議会議員宛てに提出した「骨髄移植医療の拡充と整備を求める請願」が議会が採択になったことも大変大きな出来事でした。本年以降骨髄移植を取り巻く環境がよりよい方向に向いていくことを、ことを大いに期待しています。

昨年からのドナー登録者の毎月の増加が低迷している点が気になっています。現在のドナー登録制度の中ではある程度限界があることは予測されるところです。今後さらにドナー数を増やして目標を目指すためには、登録・入院中の休業補償やバックアップ体制の充実などが必要でしょう。これらの点について私達ボランティアが何が出来るのか考える年にならばと思います。

「うちの昨年のヒット企画は何かな?」

愛媛

愛媛大学でのビデオ上映会の開催。宣伝ビデオの裏面に「骨髄バンクへの誤解ワースト4」を刷り込んで

山形市とその周辺に撒いたビラの約四万枚「骨髄と骨髄とは異なる」「骨を切り取ったり削ったりするのは「死後に提供するのではない」「登録時の検査は血液検査だけであり」「死後提供は血液検査だけであり」の四点を強調。ビデオ上映会には来なかった人でも、このビラを見て誤解を改めた人は多かったのでは?

某歌手のコンサート会場で、エイズ撲滅運動のキャンペーングッズを売っている人々に出会った。賛同している歌手は大勢おり、彼らのコンサートがある度に、ボランティアが会場に来て売らんと。これぞ、高知!

友の会

友の会では平成五年十一月に板橋区議会として骨髄バンク事業に対する支援をして下さい(都立板橋病院に無償及び医療スタッフを設備)という内容の請願を行いました。この請願は十月から始め十一月には四千八百三十二名の署名を添えて提出し、同月十六日に全面採択され、二十日には区議会議長名で東京都知事あて要請書が出されました。また、同様の請願を平成六年三月に三万五千六百六十八名の署名を添えて都議会にも提出し、同年六月には全面採択されました。また、国会に対する署名も三万六千九百三十三名を協議会へ提出することができました。日常の活動では、骨髄バンクへの協力を訴えるちらしを各戸や街頭などで配布し、当会の設立二周年の集いも百余名の参加で十一月二十日に行いました。

友の会ニユースは五回発行し、新年一月には、十二号目が発行する予定です。会員数も二百三十名をこえて今年も精一杯活動を行って

いこうと思つています。このため、草の根運動を昨年実績を踏まえて広げることや、街頭や地域への宣伝活動を強化し、行政や議会に対する運動も続けていこうと思つています。

神奈川

二度目のコンサートを開催しました。方丈に、ひな壇に金屏風の特設ステージと畳に座布団という二百五十名の客席は満員。演奏者の呼吸まで聞こえる緊張感と、流れるピアノと弦の音色に酔いしれた春の宵で、このような協力にはもうないとい多

くの声が寄せられ、岡堂寺とサンクト・フローリアン・ピアノトリオのご協力を得て、今年も四月にチャリティコンサートを開くことになりました。鎌倉の春の恒例行事の一つにしたいと思つています。

政令指定都市の各区、県内の各市町村、並びに各保健所を会員でグループ担当割り、グループを受け持ち行政担当者と共に、身近な所で身近な人々にバンクの普及啓発活動を展開し、生命の尊さ、すばらしさを合わせて訴えたい。

昨年は県総合社会福祉会館に事務局を設置することができたことがビッグエポックでした。これによって活動の拠点をきつことも、関係機関との連携に距離をきたすこともなくなり、ますます活動に弾みがついたと言えます。この実現の裏には行政当局の深い理解が得られたことがあり、今日まで私達が地道に真摯に活動してきたことを行政が認知してくれて結実した物である点

が大変うれしいところです。さらにこのような行政の強いバックアップを得て、県議会議員宛てに提出した「骨髄移植医療の拡充と整備を求める請願」が議会が採択になったことも大変大きな出来事でした。本年以降骨髄移植を取り巻く環境がよりよい方向に向いていくことを、ことを大いに期待しています。

昨年からのドナー登録者の毎月の増加が低迷している点が気になっています。現在のドナー登録制度の中ではある程度限界があることは予測されるところです。今後さらにドナー数を増やして目標を目指すためには、登録・入院中の休業補償やバックアップ体制の充実などが必要でしょう。これらの点について私達ボランティアが何が出来るのか考える年にならばと思います。

「うちの昨年のヒット企画は何かな?」

愛媛

愛媛大学でのビデオ上映会の開催。宣伝ビデオの裏面に「骨髄バンクへの誤解ワースト4」を刷り込んで

山形市とその周辺に撒いたビラの約四万枚「骨髄と骨髄とは異なる」「骨を切り取ったり削ったりするのは「死後に提供するのではない」「登録時の検査は血液検査だけであり」「死後提供は血液検査だけであり」の四点を強調。ビデオ上映会には来なかった人でも、このビラを見て誤解を改めた人は多かったのでは?

某歌手のコンサート会場で、エイズ撲滅運動のキャンペーングッズを売っている人々に出会った。賛同している歌手は大勢おり、彼らのコンサートがある度に、ボランティアが会場に来て売らんと。これぞ、高知!

第三回高知骨髄移植シンポジウムを中村市で十二月十一日開催しました。中村保健所が、十二月から、骨髄提供骨髄提供登録業務を開始したのに合わせて催しました。百二十九名の出席がありました。再生不良性貧血で死亡した方を偲んだ「クンホー会」は、第三回ゴルフチャリティで集めた二百六十六万円で、高知県内、二十九ライオンズクラブは、十月一日、4R骨髄バンク特別委員会を発足させ、年二百五十万円を目標に寄附金を集めることを決めました。

(1)機関紙発行。(2)効率のよい運営。今のままではボランティア活動の限界を感じています。ボランティア活動の減少、対策を考えたい。

この新春企画「各地の活動」については加盟各団体へ編集部より原稿の依頼をいたしました。しかしながら原稿締切日までに原稿が届かず、残念ながら掲載できなかった地域団体が多くありました。

友の会

友の会では平成五年十一月に板橋区議会として骨髄バンク事業に対する支援をして下さい(都立板橋病院に無償及び医療スタッフを設備)という内容の請願を行いました。この請願は十月から始め十一月には四千八百三十二名の署名を添えて提出し、同月十六日に全面採択され、二十日には区議会議長名で東京都知事あて要請書が出されました。また、同様の請願を平成六年三月に三万五千六百六十八名の署名を添えて都議会にも提出し、同年六月には全面採択されました。また、国会に対する署名も三万六千九百三十三名を協議会へ提出することができました。日常の活動では、骨髄バンクへの協力を訴えるちらしを各戸や街頭などで配布し、当会の設立二周年の集いも百余名の参加で十一月二十日に行いました。

友の会ニユースは五回発行し、新年一月には、十二号目が発行する予定です。会員数も二百三十名をこえて今年も精一杯活動を行って

いこうと思つています。このため、草の根運動を昨年実績を踏まえて広げることや、街頭や地域への宣伝活動を強化し、行政や議会に対する運動も続けていこうと思つています。

神奈川

二度目のコンサートを開催しました。方丈に、ひな壇に金屏風の特設ステージと畳に座布団という二百五十名の客席は満員。演奏者の呼吸まで聞こえる緊張感と、流れるピアノと弦の音色に酔いしれた春の宵で、このような協力にはもうないとい多

くの声が寄せられ、岡堂寺とサンクト・フローリアン・ピアノトリオのご協力を得て、今年も四月にチャリティコンサートを開くことになりました。鎌倉の春の恒例行事の一つにしたいと思つています。

政令指定都市の各区、県内の各市町村、並びに各保健所を会員でグループ担当割り、グループを受け持ち行政担当者と共に、身近な所で身近な人々にバンクの普及啓発活動を展開し、生命の尊さ、すばらしさを合わせて訴えたい。

昨年は県総合社会福祉会館に事務局を設置することができたことがビッグエポックでした。これによって活動の拠点をきつことも、関係機関との連携に距離をきたすこともなくなり、ますます活動に弾みがついたと言えます。この実現の裏には行政当局の深い理解が得られたことがあり、今日まで私達が地道に真摯に活動してきたことを行政が認知してくれて結実した物である点

が大変うれしいところです。さらにこのような行政の強いバックアップを得て、県議会議員宛てに提出した「骨髄移植医療の拡充と整備を求める請願」が議会が採択になったことも大変大きな出来事でした。本年以降骨髄移植を取り巻く環境がよりよい方向に向いていくことを、ことを大いに期待しています。

昨年からのドナー登録者の毎月の増加が低迷している点が気になっています。現在のドナー登録制度の中ではある程度限界があることは予測されるところです。今後さらにドナー数を増やして目標を目指すためには、登録・入院中の休業補償やバックアップ体制の充実などが必要でしょう。これらの点について私達ボランティアが何が出来るのか考える年にならばと思います。

「うちの昨年のヒット企画は何かな?」

愛媛

愛媛大学でのビデオ上映会の開催。宣伝ビデオの裏面に「骨髄バンクへの誤解ワースト4」を刷り込んで

山形市とその周辺に撒いたビラの約四万枚「骨髄と骨髄とは異なる」「骨を切り取ったり削ったりするのは「死後に提供するのではない」「登録時の検査は血液検査だけであり」「死後提供は血液検査だけであり」の四点を強調。ビデオ上映会には来なかった人でも、このビラを見て誤解を改めた人は多かったのでは?

某歌手のコンサート会場で、エイズ撲滅運動のキャンペーングッズを売っている人々に出会った。賛同している歌手は大勢おり、彼らのコンサートがある度に、ボランティアが会場に来て売らんと。これぞ、高知!

第三回高知骨髄移植シンポジウムを中村市で十二月十一日開催しました。中村保健所が、十二月から、骨髄提供骨髄提供登録業務を開始したのに合わせて催しました。百二十九名の出席がありました。再生不良性貧血で死亡した方を偲んだ「クンホー会」は、第三回ゴルフチャリティで集めた二百六十六万円で、高知県内、二十九ライオンズクラブは、十月一日、4R骨髄バンク特別委員会を発足させ、年二百五十万円を目標に寄附金を集めることを決めました。

(1)機関紙発行。(2)効率のよい運営。今のままではボランティア活動の限界を感じています。ボランティア活動の減少、対策を考えたい。

この新春企画「各地の活動」については加盟各団体へ編集部より原稿の依頼をいたしました。しかしながら原稿締切日までに原稿が届かず、残念ながら掲載できなかった地域団体が多くありました。

友の会

友の会では平成五年十一月に板橋区議会として骨髄バンク事業に対する支援をして下さい(都立板橋病院に無償及び医療スタッフを設備)という内容の請願を行いました。この請願は十月から始め十一月には四千八百三十二名の署名を添えて提出し、同月十六日に全面採択され、二十日には区議会議長名で東京都知事あて要請書が出されました。また、同様の請願を平成六年三月に三万五千六百六十八名の署名を添えて都議会にも提出し、同年六月には全面採択されました。また、国会に対する署名も三万六千九百三十三名を協議会へ提出することができました。日常の活動では、骨髄バンクへの協力を訴えるちらしを各戸や街頭などで配布し、当会の設立二周年の集いも百余名の参加で十一月二十日に行いました。

友の会ニユースは五回発行し、新年一月には、十二号目が発行する予定です。会員数も二百三十名をこえて今年も精一杯活動を行って

いこうと思つています。このため、草の根運動を昨年実績を踏まえて広げることや、街頭や地域への宣伝活動を強化し、行政や議会に対する運動も続けていこうと思つています。

神奈川

二度目のコンサートを開催しました。方丈に、ひな壇に金屏風の特設ステージと畳に座布団という二百五十名の客席は満員。演奏者の呼吸まで聞こえる緊張感と、流れるピアノと弦の音色に酔いしれた春の宵で、このような協力にはもうないとい多

くの声が寄せられ、岡堂寺とサンクト・フローリアン・ピアノトリオのご協力を得て、今年も四月にチャリティコンサートを開くことになりました。鎌倉の春の恒例行事の一つにしたいと思つています。

政令指定都市の各区、県内の各市町村、並びに各保健所を会員でグループ担当割り、グループを受け持ち行政担当者と共に、身近な所で身近な人々にバンクの普及啓発活動を展開し、生命の尊さ、すばらしさを合わせて訴えたい。

友の会

友の会では平成五年十一月に板橋区議会として骨髄バンク事業に対する支援をして下さい(都立板橋病院に無償及び医療スタッフを設備)という内容の請願を行いました。この請願は十月から始め十一月には四千八百三十二名の署名を添えて提出し、同月十六日に全面採択され、二十日には区議会議長名で東京都知事あて要請書が出されました。また、同様の請願を平成六年三月に三万五千六百六十八名の署名を添えて都議会にも提出し、同年六月には全面採択されました。また、国会に対する署名も三万六千九百三十三名を協議会へ提出することができました。日常の活動では、骨髄バンクへの協力を訴えるちらしを各戸や街頭などで配布し、当会の設立二周年の集いも百余名の参加で十一月二十日に行いました。

友の会ニユースは五回発行し、新年一月には、十二号目が発行する予定です。会員数も二百三十名をこえて今年も精一杯活動を行って

いこうと思つています。このため、草の根運動を昨年実績を踏まえて広げることや、街頭や地域への宣伝活動を強化し、行政や議会に対する運動も続けていこうと思つています。

神奈川

二度目のコンサートを開催しました。方丈に、ひな壇に金屏風の特設ステージと畳に座布団という二百五十名の客席は満員。演奏者の呼吸まで聞こえる緊張感と、流れるピアノと弦の音色に酔いしれた春の宵で、このような協力にはもうないとい多

くの声が寄せられ、岡堂寺とサンクト・フローリアン・ピアノトリオのご協力を得て、今年も四月にチャリティコンサートを開くことになりました。鎌倉の春の恒例行事の一つにしたいと思つています。

政令指定都市の各区、県内の各市町村、並びに各保健所を会員でグループ担当割り、グループを受け持ち行政担当者と共に、身近な所で身近な人々にバンクの普及啓発活動を展開し、生命の尊さ、すばらしさを合わせて訴えたい。

昨年は県総合社会福祉会館に事務局を設置することができたことがビッグエポックでした。これによって活動の拠点をきつことも、関係機関との連携に距離をきたすこともなくなり、ますます活動に弾みがついたと言えます。この実現の裏には行政当局の深い理解が得られたことがあり、今日まで私達が地道に真摯に活動してきたことを行政が認知してくれて結実した物である点

が大変うれしいところです。さらにこのような行政の強いバックアップを得て、県議会議員宛てに提出した「骨髄移植医療の拡充と整備を求める請願」が議会が採択になったことも大変大きな出来事でした。本年以降骨髄移植を取り巻く環境がよりよい方向に向いていくことを、ことを大いに期待しています。

昨年からのドナー登録者の毎月の増加が低迷している点が気になっています。現在のドナー登録制度の中ではある程度限界があることは予測されるところです。今後さらにドナー数を増やして目標を目指すためには、登録・入院中の休業補償やバックアップ体制の充実などが必要でしょう。これらの点について私達ボランティアが何が出来るのか考える年にならばと思います。

「うちの昨年のヒット企画は何かな?」

愛媛

愛媛大学でのビデオ上映会の開催。宣伝ビデオの裏面に「骨髄バンクへの誤解ワースト4」を刷り込んで

山形市とその周辺に撒いたビラの約四万枚「骨髄と骨髄とは異なる」「骨を切り取ったり削ったりするのは「死後に提供するのではない」「登録時の検査は血液検査だけであり」「死後提供は血液検査だけであり」の四点を強調。ビデオ上映会には来なかった人でも、このビラを見て誤解を改めた人は多かったのでは?

某歌手のコンサート会場で、エイズ撲滅運動のキャンペーングッズを売っている人々に出会った。賛同している歌手は大勢おり、彼らのコンサートがある度に、ボランティアが会場に来て売らんと。これぞ、高知!

第三回高知骨髄移植シンポジウムを中村市で十二月十一日開催しました。中村保健所が、十二月から、骨髄提供骨髄提供登録業務を開始したのに合わせて催しました。百二十九名の出席がありました。再生不良性貧血で死亡した方を偲んだ「クンホー会」は、第三回ゴルフチャリティで集めた二百六十六万円で、高知県内、二十九ライオンズクラブは、十月一日、4R骨髄バンク特別委員会を発足させ、年二百五十万円を目標に寄附金を集めることを決めました。

(1)機関紙発行。(2)効率のよい運営。今のままではボランティア活動の限界を感じています。ボランティア活動の減少、対策を考えたい。

この新春企画「各地の活動」については加盟各団体へ編集部より原稿の依頼をいたしました。しかしながら原稿締切日までに原稿が届かず、残念ながら掲載できなかった地域団体が多くありました。

友の会

友の会では平成五年十一月に板橋区議会として骨髄バンク事業に対する支援をして下さい(都立板橋病院に無償及び医療スタッフを設備)という内容の請願を行いました。この請願は十月から始め十一月には四千八百三十二名の署名を添えて提出し、同月十六日に全面採択され、二十日には区議会議長名で東京都知事あて要請書が出されました。また、同様の請願を平成六年三月に三万五千六百六十八名の署名を添えて都議会にも提出し、同年六月には全面採択されました。また、国会に対する署名も三万六千九百三十三名を協議会へ提出することができました。日常の活動では、骨髄バンクへの協力を訴えるちらしを各戸や街頭などで配布し、当会の設立二

参加者に感動を与えた 多様な企画 — 骨髄バンク推進財団 全国大会'94 —



財団主催による「骨髄バンク推進全国大会'94」が十二月十一日、大阪市MBSギャラクシーホールで開かれました。大会の様相と開催に協力された関西協議会の平田さんの感想文を紹介します。

早く十万人の登録を達成して欲しい」などの感想が語られました。次に、六名の移植医・採取医・ナース・コーディネーターが登場し、バンク事業にたずさわったの感想が語られました。移植医からは移植ができた時の喜びや施設不足の問題。ナースからは、苦痛に打ち勝とうと頑張る患者の姿に学ぶところが多いこと。コーディネーターからは、患者が退院したときの感動、などが紹介されました。

アジア太平洋地区のバンクの現状

第三部は、アジア太平洋地区でバンクに携わる先生から、各国の現状が報告されました。主なものは――▼オーストラリア三年前からスタート。ドナー登録は六万八千余人に。▼香港三年前にスタート。一次検査済みのドナーは約一万七千人に。▼台湾 資金は仏教界から。一昨年発足でドナー登録は六万人に。▼韓国 去年の半ばにスタート。ドナーは三千人に。▼北京 始めたばかりでドナーは二千人。▼シンガポール 八十五年に構想がスタート。民間中心で政府のサポートが求められている、などです。

白血病と戦う人々の作品展



人々の作品展が八日間にわたって催され、中堀さんのウエディングドレス、あやちゃんの絵画、リサちゃんの俳句(写真)などの展示品は、参加者の涙をさそっていました。

「骨髄バンク推進全国大会'94」の開催に協力して

「骨髄移植推進財団や全国協議会は東京近辺だけでやっている。こんな意見を持っている地方のボランティアの人々もいるのではないのでしょうか。(決してそんなことはありませんが)関西でもそんな意識がなかったと言えませんが。」

そんな中、骨髄移植推進財団の三周年記念式典が初めて東京を出、関西の地で行なわれ、財団主催とは言えないものの関西協議会が主体となって動かなければ何も進まない状況の中で、直接交渉に当たった担当者の苦労はわたしにも想像がつかせぬ。

しかし、当日の通路に溢れんばかりの参加者の数と作品展を含めた催しの内容に私達の苦勞も報われたような気がします。特にアジアのネットワーク作りに関しては関西色を出すことが出来たと思います。

今回の開催を通じて私達は確かな手応えを感じ、この運動が着実に各方面に広がっていることを実感できました。次回はいずれの街で開いてはいいかがでしょうか。日本、骨髄バンクなのですから。

(関西・平田)

各地のたより

埼玉
子どもフォーラム開く

十一月二十七日、大宮市で「子どもフォーラム」を開きました。フォーラムの第一部は、アニメ『金色のくじら』の上映のあと、原作者の岸川先生からのお話。第二部は、読書感想文コンクールの発表と表彰式。コンクールには、県内の百六校から五百四十七通の応募があり、県知事賞をはじめ十八名の生徒に賞状と記念品が贈られました。

最後は、手話によるコーラスを全員で行なって、心暖まるつどいに幕を閉じました。

山梨
山梨で初イベント開催

平成六年十二月十九日(土)に山梨県と山梨県赤十字血液センターの主催により県民のフォーラムがシンポジウムの形で開催され、この日は厚生省より須納瀬課長補佐を始め、山梨県のアイバンク・腎バンクの理事長・山梨医大の杉田医師、提供者として杉山肇氏そして静岡骨髄バンクを推進する会の八木会長と全国協議会を代表して渡辺運営委員長が招かれた。

フォーラムはオーソドックスな講演とシンポジウムのスタイルであったが、提供者である杉山氏のスピーチは気負いがなく淡々として、実に好感もてる内容であった。山梨県は東日本では唯一ボランティア団体のない県であり、そのことがドナー登録数にも現われてきておりボランティア団体の設立が待ち望まれている。一般的に各地ではボランティア団体が県のお尻を叩きながら骨髄バンク運動を推進していくが山梨県においては県が積極的に活動していて、どの様にしたらボランティア団体ができるのか頭を悩ましていて、というちよつと変わったところがある。

あのミレーの絵画が展示されている、山梨県立美術館が会場であり、周囲のロケーションも素晴らしく、芸術を愛する山梨といった雰囲気伝わってきた。後はボランティアの立ち上がり待つのみである。

富山
東・大谷トークショー

十一月二十三日普及広報委員長の森先生、女優の東ちづるさん、大谷貴子さんをお迎えして、トーク・ショーを開催しました。前日から北陸特有の天気、雨降りの雷鳴りので心配しましたが、当日はたくさんの方が参加くださいました。お二人の太陽のような軽快なトークで、「よくわからんがやけど、何やら恐いことするがやろ」という骨髄バンクのイメージが少しは変わったのではないかと思います。会場は結婚式で、結婚式にいられた人も「着物でもいい？」と見にこられ、「花嫁の立場は？」とこちらが心配してしまうほどでした。

マイクの調子が悪く、東さんを始め出演者の方々、来場者の方にご迷惑をおかけしたのが残念でしたが、終了のあと、「楽しかった」「よくわかった」という声があふれしく響きました。



岐阜
大幸丸、県内をキャラバン

十一月三日から十一月十三日までの十一日間、愛知・岐阜・三重の県庁並びに市庁舎を訪れ、県の部長さんや市長さんなどを始め、多くの職員の方が「大幸丸」を出迎えていただき「骨髄バンクへの理解」と、今後の前向きな対処を約束していただきました。県庁へのキャラバンのほか、繁華街での街頭啓発や大学祭での啓発を行いました。

このキャラバンの途中、若い奥さんが車の窓越しに「登録できるとはいいですね」と尋ねられ、あわてて「チャンス」を渡して説明するなどのアクシデントもありましたが、ある市では、赤ち



写真提供：読売新聞社

あなたと創る **Creating Together** **三菱自動車**
シートベルトをしめて、スピードをひかえめに。安全運転は三菱の願いです。

ひとりひとりに優しさを、FUSOの技術。

その荷物を心待ちにしている人がいます。
その笑顔に早く会いたいと思う人がいます。
たくさんの暮らしを支えて走る三菱FUSOのトラック・バス。
より安全・快適に、地球の未来やドライバーのことを考えて、
ヒューマンな技術を開発し、新時代のニーズに答えています。
あなたのそばにも、FUSOの創造力と総合力。

創造力と総合力。トラック・バスは三菱ふそう。
MITSUBISHI FUSO